

臨床検査分野における海外への技術協力と日本式検査工程の導入について

◎古川 久美子¹⁾、渡邊 樹里²⁾
新潟医療福祉大学¹⁾、国立大学法人 名古屋大学医学部附属病院²⁾

【はじめに】

日本では、血液、微生物、尿沈渣の顕微鏡検査は臨床検査技師が行っているが、海外では検査担当医師が顕微鏡検査を行い、最終結果報告をしている国もある。そのため、医師が常駐していない時間は結果が滞り、Turn Around Time (TAT) が著しく遅延することがある。バングラデシュ人民共和国も同様の検査体制であるため、TAT が遅延することが問題となっている。

現在、我々は臨床検査技師が顕微鏡検査を行い、最終結果を報告する日本式検査工程をバングラデシュ人民共和国内の臨床検査室に導入するため、オンラインと現地で技術協力を行っているため、その報告を行う。

【活動内容】

株式会社 miup が運営するバングラデシュダッカ市内にある臨床検査室のバングラデシュ人臨床検査技師を対象に、血算と抹消血液像の検査フローの改善を行っている。血算測定は検査技師が分析器を使用し測定しているが、血液像検査は医師が行っている。この2つの検査フローを検査技

師が行うため、検査マニュアルの整備、顕微鏡の使用方法、血液像の教育等を行っている。医師からの反発や遠隔での支援のため、なかなか進まない状況であるが、スタッフの入れ替えや、話し合いを進め少しずつではあるが、前進している。

今後は、微生物検査における顕微鏡検査にも着手する予定である。

【まとめ】

日本式検査工程を導入し、臨床検査技師が顕微鏡検査を行い TAT が改善することで臨床現場への貢献が見込まれる。昔からの慣習や検査方法の違い、既得権益の存在があるなか、臨床検査技師の業務拡大は難しいと感じているが、臨床検査技師の技術向上と雇用を創出し、医療ニーズに応え、医療の質向上につなげていきたい。今後もオンラインや現地での支援を行い、医療技術協力を行ってきたい。

連絡先 025-257-4427